

花きの県別生産出荷概況(12月見通し)

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積	出荷見込み		12月のピーク(%)			主産地
				期間	ha	出荷総数	京浜地域向	上旬	中旬	下旬	
				(ピーク)	(前年比)	千本	千本				
さくら	山形	促成	啓翁桜	12~4月	228	180	150	0	5	95	県内全域
				(12/下~3/上)	(102%)	(70%)	(70%)				
アルストロメリア	山形	周年	アパランジェ レベッカ ピンクサブライズ レモン オルガ 他	周年	9	440	180	35	35	30	JA山形おきたま JA鶴岡 JAそでうら
					(101%)	(100%)	(102%)				
ストック	秋田	施設	雪波 朝波 カルテット系	10月~3月	4	243	37	40	30	30	JAこまち JAうご
				(11月)	(104%)	(107%)	(105%)				
	千葉	施設		11~4月 (2~3月)	39.8 100%	75 30%	35 30%	5	15	80	館山市(神戸、西 岬)、南房総市 (白浜の長尾、千 倉、丸山、和田)、 鴨川市

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
さくら	山形	<ul style="list-style-type: none"> ・促成は例年どおり12月上旬から本格化し、年内出荷は下旬から本格化すると見込まれる。 ・昨年の暖冬、小雪の影響と9～10月の台風の影響で昨年よりも出荷が減少する見込み。 ・年内出荷はスリーブ品中心。 	<p>現状</p> <p>見通し</p> <p>大田花き</p> <p>FAJ</p> <p>東日本板橋花き</p> <p>世田谷花き</p> <p>第一花き</p>
アルストロメリア	山形	<ul style="list-style-type: none"> ・低い温度で経過したため、生育は順調である。 ・12月の出荷量は、前年並と見込まれる。 ・病害虫の発生は少なく、品質は良好である。 	<p>現状</p> <p>見通し</p> <p>大田花き</p> <p>FAJ</p> <p>東日本板橋花き</p> <p>世田谷花き</p> <p>第一花き</p>
			<p>11月中旬までは、愛知、長野、山形ともに低温の影響から生育が鈍くなり出荷本数は横ばい、引き合いは強く高値での取引となった。下旬から上位等級が増加し始め、また葬儀需要が減少してきたことから相場は下がり始め中値での取引となった。</p> <p>9月一か月の曇天の影響から花立ちが悪く、昨年より数量は大きく減少する見込み。愛知、長野、山形ともに徐々に増加傾向とはなるが、下位等級は少なく推移する。 550,000本 @95</p> <p>引き続き山形・長野より入荷。徐々に出荷数量増加するものの安定した相場での取引見込まれる。</p> <p>愛知・青森・福島・北海道中心の入荷。徐々に愛知産の出荷量が増えて来る見込み。</p> <p>中旬に向けて長野産若干増える予定</p> <p>入荷の多く無い時期で、年末需要の動き。</p>
ストック	秋田	10月の気温が低かった事と作付けを後ろにずらしている事から昨年度に比べ11月10日現在の出荷量で前年対比53%。気温が低い事からピークがなくだらだらとした出荷が続いている。今後の見通しとしては気温が上がると一気にピークを向かえる見込み。	<p>現状</p> <p>見通し</p>
	千葉	<ul style="list-style-type: none"> ①9月の日照不足により年内出し出荷は、3週間以上遅れている。 ②西岬共選はアイアンシリーズが中心となる。その他はカルテットシリーズが中心。 	<p>大田花き</p> <p>FAJ</p> <p>東日本板橋花き</p> <p>世田谷花き</p> <p>第一花き</p>
			<p>山形は中旬よりST、SP共に徐々に増加。葬儀、業務系の動きが堅調で例年と比べて高値で推移。下旬より少しづつ潤沢感が出てきた。千葉産は遅れており、下旬か来月上旬より出荷開始となる。</p> <p>千葉産の出荷がスタートする。山形の出荷ピークは上旬。中下旬も例年と比べてやや短い等級中心に安定した出荷となる。</p> <p>本格出荷開始。東北各県より出荷数量が増える見込み。</p> <p>千葉も生育が遅れており、年末からの出荷になりそう。山形・福島産は潤沢。</p> <p>現状入荷は少ない業務需要主体に引き合いは有る。このところの冷え込みも有り入荷は減少年末需要も有り強い引き合い。</p>

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
バラ	群馬	日中の気温低下に伴い採花量は減少する時期だが、天候も安定しているため出荷量は前年よりも多く平年並みとなる見込み。品質面も良好で、病虫害等の発生も特に見られない。	<p>現状</p> <p>夏場の高温、秋の日照不足の影響を受け数量減となった。プライダル需要や品薄から販売は堅調な状況。11月22日の良い夫婦の日に向けSTD赤やピンク系の引き合いが強くなった。</p>
	山梨	病気の発生が見られるが、生育は全体的に順調である。生育は順調で昨年と同じ。	<p>見通し</p> <p>大田花き 国産のクリスマス需要に向けた赤は、サイクル的には中旬頃より増加傾向となるが今後の天候次第となる。輸入はケニア産中心に潤沢な入荷となる見込み。</p>
	大分	出荷の大きな増減のない月となる。日照が弱いことによる開花遅れにより、平年の8割程度の出荷見込み。	<p>FAJ 平年並みの入荷を予定。年末に向けて数量増加する見込み。</p> <p>東日本板橋花き 東北物は冬休みに入るため徐々に減少傾向、暖地物は横ばい、輸入物は物日にむけて増加傾向の見込み。</p>
			<p>世田谷花き クリスマスに向けて赤系中心の動きがある見込み。但し入荷は少ない。</p> <p>第一花き クリスマス需要で赤系は例年落ち着いている感じ他品種も落ち着いた流れ。</p>
トルコギキョウ	熊本	高温の影響で全体的に前進化している。また、斑点病が各産地で散見されるので、薬剤による防除や換気の徹底により、対策を行っている。12月は中旬ごろから数量増加しだす見込みであり、出荷量は昨年並み～微減を見込む。	<p>現状</p> <p>9月の曇天の影響で生育の遅れあり、中旬より西南暖地がやっと落ち着いた入荷となった状況。中でも上位等級の良い物に関しては引き合い強く、特に業務系の引き合いが相場を引っ張った。プライダルもあつたが小売りは厳しい相場で、顧客からは高すぎて手が出ないなど厳しい相場が続いた。</p>
	大分	全体的に開花が遅れており、台風による定植遅れにより出荷が1月以降になる生産者も多く、12月は数量は大きく増えず横ばいの出荷見込み。	<p>見通し</p> <p>大田花き 遅れていた10.11月分が上旬に増え出し相場は落ち着く。引き合いは松、千両、年末とお金を使う需要期が控えている為、無駄な仕入はしない。数量的には上旬はあるが後半は数量減少してくる。</p> <p>FAJ 平年並みの入荷を予定。年末に向けて数量増加する見込み。取引も後半に向けて活発に。</p>
			<p>東日本板橋花き 暖地が全体的に1ヶ月前進しているが12月中は潤沢に出荷される見込み。</p> <p>世田谷花き 熊本・高知・静岡などから入荷。台湾産も始まり、引き合いも弱まり、落ち着いた展開か。</p> <p>第一花き 年末需要・業務需要中心の流れ。品種・品質格差の単価差は出ている。</p>